

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

ポピンズナーサリースクール小机

横浜市港北区小机町 2580-1

運営主体:株式会社 ポピンズ

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価 (評価結果についての講評)	2～4 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
● 分類別評価結果	7～17 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	18～24 ページ
● 利用者本人調査分析	25～26 ページ
● 事業者コメント	27 ページ

公表日: 2012 年 12 月 14 日

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	ポピンズナーサリースクール小机（保育所）		
事業所への報告書提出日	2012年11月14日	評価に要した期間	5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

■評価方法

1、自己評価 実施期間 2012年6月15日～2012年7月31日	① スタッフミーティング時に趣旨などを説明し、自己評価票に、常勤・非常勤職員各個人が、勤務時間内に記入した。 ② 各個人が記入したものをもとに、全員集合ミーティング、フロアミーティング、リーダーミーティングなどで、各項目を1つずつ確認していった。 ③ ②をもとに、主任と施設長が話し合い、まとめた。
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2012年7月17日～2012年7月31日	① 全園児の保護者（41世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡して配付した。 ② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
3、訪問実地調査 実施日：第1日 2012年9月19日 第2日 2012年9月25日	[第1日] ① 午前：各クラスで保育観察。 ② 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。 [第2日] ① 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 ② 昼食：2歳児および幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：各クラス担任保育士5名、フリー保育士1名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名に個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。
4、利用者本人調査 実施日：第1日 2012年9月19日 第2日 2012年9月25日	① 観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 ② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

ポピンズナーサリースクール小机は、JR 横浜線「小机」駅から徒歩約 1 分、横浜線下りホーム沿いにあります。2000 年（平成 12 年）4 月、株式会社ポピンズにより横浜保育室として開設され、2002 年（平成 14 年）6 月、認可保育園となりました。同社は、首都圏を中心に約 100 園の保育関連施設のほか、ベビーシッターサービス、高齢者在宅ケアサービスなどの事業を行っていて、本園のほか 2 つの保育園を横浜市内（都筑区、中区）に設置しています。

本園の施設は、2 階建てで、1 階に、保育室（0,1 歳児クラス）・調理室・応接室など、2 階に、保育室（2～5 歳児クラス）・事務室などがあり、保育室は、1、2 階ともオープンスペースとなっています。近くには、新横浜公園などいくつかの公園があり、子どもたちの散歩や遊び場として利用されているほか、駅近くの横浜市城郷小机地区センターの体育館を借用し、運動やダンスなどを行っています。また、JR 小机駅駅長が園の運営委員会の委員として参加しています。

定員は 45 名（0～5 歳児・産休明け保育あり）、開園時間は、平日 7 時～20 時、土曜日 7 時～16 時です。なお、0～3 歳児は年齢ごとのクラス編成ですが、4・5 歳児は合同のクラスとなっています。

ポピンズナーサリースクール小机の理念として、「エデュケア（*）プログラムの実践に基づき、一人ひとりの才能と個性を伸ばし、人間性豊かで創造性に富む人間を育成する」を掲げています。理念に基づき、教育方針を「わたしたちは人生でもっとも重要な時期のお子さまたちに真の人間教育をいたします」と定め、具体的な目標を「1. 寛容な人間 2. 聡明で愛情深い人間 3. 独立心旺盛な人間 4. インターナショナルな舞台で活躍できる人間」としています。

（*）エデュケアとは、エデュケーション（教育）とケア（保育）を組み合わせた言葉です。理念に基づき、保育方針ではなく、教育方針としています。

◆ 高く評価できる点

1、子どもたちは、明るく元気よく遊びながら、さまざまなことを学んでいます。

晴れた日にはほとんど、戸外に出ます。園庭では、砂場やすべり台などで元気に遊びます。横浜線のホーム沿いにあるので、電車が通ると手を振る子どもたちの姿も見られ、車掌さんが手を振って応えてくれることもあります。散歩では、少し離れた所にある、日産スタジアム近くの新横浜公園や、国土交通省鶴見川流域センターに出かけることが多く、さまざまな遊びやゲームをしたり、川に生息する生き物と触れあったりしています。保育室内でメダカや昆虫の飼育をし、当番が世話をしたり、園庭にある畑では、一般的な野菜のほかに、米やスイカも子どもたちがつくったりして、子どもたちは動物や植物への関心を高めています。子どもたちの要望で、花壇の花の植え付けや草取りにも子どもたちが参加しています。

また、園からやや遠くにある岸根公園に行ったり、同じ運営法人が経営するポピンズナーサリースクールセンター南を訪れ、同園の子どもたちと隣接する都筑中央公園で一緒に遊んだりすることもあります。電車に乗って出かけるので、子どもたちの社会経験ともなっています。

室内での一斉活動の時間には、折り紙や紙粘土を使った製作・絵描き・誕生会の出し物の練習などが行われています。プログラムを始める前やさまざまな場面で、保育士は子ども一人一人の意見を聞いています。例えば、絵描きを始める前には、「何を描きたい？」「何色にする？」などと問い、子どもたちも大きな声ではっきりと自分の意思を伝えています。

全クラスで週 1 回、リトミックの時間があり、専門講師の弾くピアノの音楽にあわせて、思いっき

り身体を動かして楽しんでいます。また、近隣の横浜市城郷小机地区センターの体育館で、さまざまな運動をしたり、ダンスを踊ったりする機会もあります。

さらに、多文化理解教育の一環として、外国人講師による英語遊びの時間が週1回あり、英語を楽しみながら文化の違いがあることを子どもたちは学んでいます。また、世界にはいろいろな人々がさまざまな生活をしていることが分かるように、毎月異なった国の文化や生活（お金・名所・動物など）の写真掲示とともに、その国の伝統料理を給食献立に取り入れています。外国だけでなく、毎月、日本の県の一つを選び、その県の郷土料理も給食献立に取り入れ、子どもたちは、その国、その県を知る体験をしています。

朝夕の自由時間では、園庭で遊んだり、室内で、ブロック遊び、ままごと、絵本読みなどをしたり、子どもたちは自分の好きなことに熱中し、保育士は子どもたちの様子を見ながら、遊び方をアドバイスしたり、別のおもちゃや用具などを出したりして、遊びを発展できるように支援しています。

2、職員は、家庭的な雰囲気大切にしながら、一人一人の子どもの個性を伸ばすよう関わっています。

保育姿勢である「愛情あふれる美しい保育環境、かつ、自宅の居間できょうだい穏やかに育ちあえるような安心できる保育環境の中で、私達は子ども一人ひとり独立した存在として尊敬し、個性を伸ばし、子どもの尊厳、独立心、権利を守ります」を念頭に、全職員が子どもたちと関わっています。

朝夕の自由時間には、保育室がオープンスペースなので異年齢児間の交流が自然に行われていますが、プログラムの中でも異年齢児のクラスと一緒に活動する時間を多く取り入れ、まるできょうだいと一緒に過ごしているような環境を積極的につくっています。また、職員は子どもたちに対して、「ダメ」とか「してはいけない」などの禁止の言葉は使わず、「どうしたらいい？」などと声をかけ、温かな雰囲気となるように心がけています。

職員は、遊びや製作、食事などさまざまな場面で、子どもの言い分をていねいに聞き取ったり、態度やしぐさから子どもの気持を汲み取ったりして、一人一人の個性に応じた対応をしています。

また、保育のさまざまな場面の写真やビデオの映像を職員が揃って見て、文章や言葉だけでは伝わりにくい子どもたちの行動なども把握し、その時の子どもの気持や思いをどのように考えたら良いか、職員はどのように対応すべきかなどを、職員間で意見交換し、一人一人の子どもの個性をより深く理解することに役立てています。さらに、スタッフミーティングやフロアミーティングなど、あらゆる機会に、子ども一人一人の情報を全職員間で共有化するようにして、職員間の連携の良さにもつながっています。

◆ 独自に取り組んでいる点

ISO9001 の認証を取得し、継続的な業務改善に取り組んでいます

2003年（平成15年）12月に、品質マネジメントシステム（Quality Management System）の国際規格であるISO9001の認証を取得しています（系列の約100園の保育関連施設でISO9001の認証を取得しているのは、本園と東京都内にある1園のみです）。規格に基づき、保育サービス業務の管理システムを構築し、毎年2回の外部機関による審査を受け、管理システムの継続的な改善に努めています。

◆ 今後期待される点

職員の資質向上への取り組みの工夫

非常勤職員には、必要と思われるマニュアルの内容は伝えていますが、その他の業務も含めた全体

のマニュアルの詳しい内容は伝えていません。それらも開示することにより、非常勤職員が、保育技術や園の方針などをより深く理解することができ、資質向上につながることが期待されます。

また、本社研修・園内研修や、横浜市や港北区、横浜市総合リハビリテーションセンターなどが実施する研修会などの外部研修に職員が積極的に参加しています。しかし、これらの研修に非常勤職員が参加する機会はほとんどないので、必要な研修には非常勤職員も参加する機会をつくるなどの工夫が望まれます。

研修計画に基づき、上記のようなさまざまな研修に職員は参加していますが、総合的な人材育成計画を策定するには至っていません。どのような職員を期待し、組織としてどのように育成に取り組むのか、座学研修、現場実習（OJT）、自己啓発などを含めた能力開発をどのように進めるのかなどの総合的な人材育成の方針・計画を策定することが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・ ポピンズナーサリースクール小机の理念を「エデュケア(*)プログラムの実践に基づき、一人ひとりの才能と個性を伸ばし、人間性豊かで創造性に富む人間を育成する」としています。理念に基づき、教育方針を「わたしたちは人生でもっとも重要な時期のお子さまたちに真の人間教育をいたします」と定め、具体的な目標を「1. 寛容な人間 2. 聡明で愛情深い人間 3. 独立心の旺盛な人間 4. インターナショナルな舞台で活躍できる人間」としています。
(*)エデュケアとは、エデュケーション（教育）とケア（保育）を組み合わせた言葉です。理念に基づき、保育方針ではなく、教育方針としています。
- ・ 施設の玄関に、企業理念・理念・教育方針を掲示し、保護者・職員に周知しているほか、毎日1回、職員同士で企業理念・理念・教育方針の復唱を実施しています。また、職員は、入社後の初任者研修や中堅保育士研修において、理念や教育方針などの説明を受けています。
- ・ 運営法人で定めた個人情報管理規定があり、全職員は、入社時に個人情報の取り扱い方に関する説明を受け、機密保持誓約書を提出しています。また、ボランティア・実習生に対しては、事前に個人情報の取り扱いや守秘義務についての説明をしています。
- ・ 子どもへの言葉かけについては、穏やかで優しい話し方を徹底しています。子どもに禁止語を使用せず「どうしたらいい？」と、子どもが自分で考えるように投げかけています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・ 1階の0歳児・1歳児クラスの保育室、2階の2歳児、3歳児、4・5歳児クラス保育室は、オープンスペースになっています。音楽や保育士の声などが他クラスの活動のさまたげにならないよう、保育士同士で戸外と室内活動の時間や、保育室内のどの場所を使うかなどを丁寧に調整しています。
- ・ おもちゃや絵本は棚に整理され、子どもが自由に取り出して遊び、自分で片付けもしやすいようにおかれています。特に絵本は、子どもたちの要望に応じて十分に備えられています。
- ・ 夏の暑い日と天気の良い日を除き、毎日散歩や園庭遊びの時間を設けています。月に2回の、横浜市城郷小机地区センターの広い体育室を利用した運動遊びや、週に1回、専門講師によるリトミックの時間も設けています。さらに、3歳児クラス以上では「アドベンチャープログラム」として、自然や地域にふれる様々な経験を、年間を通して行っています。
- ・ 乳児の食事は、離乳食の段階に応じた援助で、待たせず、急かさず子どもの食べるペースに合わせて、食べさせています。授乳は子どもを優しく抱きとめ、静かな声で子守唄を口ずさんだり声をかけたりしながら、ゆったりと行っています。
- ・ テラスでの戸外食事体験や、自分でおにぎりを作る「おにぎりパーティー」など、子どもがわくわくして食卓に向かえるような工夫を重ねています。
- ・ 幼児クラスの子どもたちは、横浜市総合リハビリテーションセンター内の肢体不自由児クラスを年3回訪問し一緒に遊ぶ交流をしています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・ 保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案・日案を作成しているほか、文字・数の取り組み、運動の取り組み、音楽・リトミックなど分野別に、月別のねらいと内容を作成しています。また、全クラス共通で食育活動、環境教育、多文化理解教育、非常・災害対策訓練などの年間計画を作成しています。
- ・ 0～2歳児は、毎日、連絡帳（複写式）を用いて、活動内容以外にも子どもの様子（体温・食事など）を保護者に伝え、保護者からは家庭での様子・体調などを記入してもらい、きめ細かな情報共有を図っています。3歳児以上は、自由記載の連絡ノートを用い、必要に応じて記入しています。

- ・品質マネジメントシステム（Quality Management System）の国際規格である ISO9001 の認証を取得しています。それに基づき、健康管理・衛生管理・安全管理などの業務マニュアルを完備し、この手順に則りそれぞれの業務を行っています。
- ・食物アレルギー疾患の子どもについては、月末に、栄養士・担任・保護者で次月の献立内容について面談・確認を行い食事変更面談記録に記載し、代替食・除去食を提供しています。食卓ではトレイやエプロン（0～2歳児のみ）を他の子どもたちと色が違うものを使用しています。また、子どもの名前と食べてはいけない食材名を記した札をトレイに立て、子どもが座る位置を必ず一定の場所にするなどの配慮をしさらに、テーブルでの配膳の際に保育士同士で確認して間違いのないようにしています。
- ・現在、保護者会はありませんが、園の運営委員会に保護者代表1名が参加し、年2回の運営委員会で意見を出してもらっています。
- ・子どものケガは軽いものであっても必ず保護者に直接報告し、アクシデントレポートに、状況を記録しています。月1回のスタッフミーティングでアクシデントレポートの分析を行い、再発防止策と改善策を話し合っています。

4、地域との交流・連携

- ・港北区区内保育園合同で毎年行っている「港北区わくわく子育て広場」には、企画準備段階から参画し、港北区役所や他保育園と連携を持って育児講座などの子育て支援を行っています。
- ・見学者や園庭開放利用者からの育児相談には応じていますが、定期的に相談日を設けて、育児相談に応じるまでには至っていません。
- ・隣接する JR 小机駅からの要請を受けて「JR こども鉄道作品展」に電車の絵を発表展示したり、ハロウィンに地域の高齢者施設を訪問して、お年寄りとともに楽しんだりするなどの交流を続けています。
- ・横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」や、運営法人のホームページに、園のわかりやすい情報を提供しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・本社全体会議の報告（会社の経営・運営状況、運営法人内他保育園の状況など）および園の経営・運営状況を、スタッフミーティングで職員に周知しています。また、情報公開ルールに基づき運営委員会に開示しているほか、保護者からの要請があれば開示しています。
- ・スタッフミーティング時に施設長が理念・教育方針を説明しているほか、毎日1回、職員同士で理念・教育方針を復唱しています。また、保育日誌に、保育サービスチェックリストが記載されていて、職員は求められる保育姿勢と自己の姿勢を毎日ふり返っています。
- ・事業運営に関する情報は、横浜市や港北区役所からのほか、本社全体会議などで得ています。また、社内ネットワークシステムを通じて、最新情報が配信される仕組みがあります。

6、職員の資質向上の促進

- ・毎年度初めに、職員は個人目標を設定し、施設長と面談しています。年度末に自己評価を行い、施設長と面談し、達成度評価を受けています。
- ・本社研修、園内研修、外部研修などに職員は積極的に参加しています。参加した職員は、実践に活かせるように視点を整理してスタッフミーティングで報告し、職員全員で情報を共有するようにしています。
- ・非常勤職員には採用時に、職場内OJTを主任やクラスリーダーが行っています。その後は、必要に応じてその都度指導を行っていますが、種々の研修に非常勤職員が参加する機会はほとんどありません。必要な研修を非常勤職員も受講できるような工夫が望まれます。
- ・動画OJT支援システムがあり、保育の基本技術や子どもたちへの接し方などの画像を見て、意見交換し、より良い保育となるように努めています。
- ・スタッフミーティングなどの司会は、職員が担当し意見交換や提案などをしやすくするとともに、施設長は、保育士同士の意見交換、相談、コミュニケーションが円滑に行われるような職場環境づくりに努めています。さらに、年1回、本社による職員へのアンケート調査があり、要望・意見を自由に記入することができます。

分類別評価結果

- ※ 横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。
- ※  ← 「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。
3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある
- ※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I - 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> <p></p> <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、保護者の実状などを考慮して作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポピンズナーサリースクール小机の理念を「エデュケア(*)プログラムの実践に基づき、一人ひとりの才能と個性を伸ばし、人間性豊かで創造性に富む人間を育成する」としています。理念に基づき、教育方針を「わたしたちは人生でもっとも重要な時期のお子さまたちに真の人間教育をいたします」と定め、具体的な目標を「1. 寛容な人間 2. 聡明で愛情深い人間 3. 独立心の旺盛な人間 4. インターナショナルな舞台で活躍できる人間」としています。 ・ (*エデュケアとは、エデュケーション(教育)とケア(保育)を組み合わせた言葉です。理念に基づき、保育方針ではなく、教育方針としている。 ・ 保育姿勢を「愛情あふれる美しい保育環境、かつ、自宅の居間できょうだいが穏やかに育ちあえるような安心できる保育環境の中で、私達は子ども一人ひとり独立した存在として尊敬し、個性を伸ばし、子どもの尊厳、独立心、権利を守ります」としています。 ・ 施設の玄関に、企業理念・理念・教育方針を掲示し、保護者・職員に周知しているほか、毎日1回、職員同士で企業理念・理念・教育方針の復唱を実施しています。また、職員は、入社後の初任者研修や中堅保育士研修において、理念や教育方針などの説明を受けています。 ・ 保育課程は、教育方針や園の立地環境、保護者の就労状況などを考慮して作成し、保育所保育指針に示されている7領域のほかに、多文化の理解および食育(食を営む力の基礎)の2領域を加えています。 ・ 年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案・日案を作成しているほか、文字・数の取り組み、運動の取り組み、音楽・リトミックなど分野別に、月別のねらいと内容を作成しています。また、全クラス共通で食育活動、環境教育、多文化理解教育、非常・災害対策訓練などの年間計画を作成しています。 ・ 指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるように作成しています。また、活動時の写真やビデオを、職員全員で見て意見交換を行い、指導計画の見直しに活かしています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1)入園前に子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2)新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

- ・入園前に、保護者と施設長や主任などが面接しています。食物アレルギーや健康状態などで個別に配慮が必要な場合には、栄養士や看護師が面談するほか、必要に応じ関係機関と連携を取るようにしています。
- ・保護者との面接時には、必ず子どもを連れてきてもらい、子どもの様子を把握しています。
- ・事前に、保護者に子どもの生育歴や家庭での状況を記入・提出してもらい、保護者の育児方針や意向をふまえて面接を実施しています。
- ・面接時に把握した事項は、面接シートなどに記録し、事前に提出してもらった書類とともに、個別ファイルに綴じて保管し、職員が共通理解できるようにするとともに、日々の保育に活かしています。
- ・入園前面接の際、ならし保育の意義を保護者に説明し、必要な場合は、保護者の考え方・就労状況などを尊重し、個別に対応しています。
- ・0～2歳児は、毎日、連絡帳（複写式）を用いて、活動内容以外にも子どもの様子（体温・食事など）を保護者に伝え、保護者からは家庭での様子・体調などを記入してもらい、きめ細かな情報共有を図っています。3歳児以上は、自由記載の連絡ノートを用い、必要に応じて記入しています。
- ・乳児クラスは、複数担任なので、なるべく1人は持ち上がりになるよう配慮しています。
- ・子どもの発達や状況に応じて、月間指導計画・週案の作成・評価・見直しを行っています。また、保育日誌にその日の子どもの様子や、保育中に気づいたことなどを記録し、翌日以降の計画の見直しに反映させています。
- ・計画の評価・改訂にあたっては、朝夕送迎時の保護者からの意見や、年1回の運営法人による保護者アンケートの内容などを計画に反映させるようにしています。

I-3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・品質マネジメントシステム（Quality Management System）の国際規格であるISO9001の認証を取得していて、健康管理・衛生管理・安全管理などの業務マニュアルを完備しています。
- ・毎朝・昼・夕と各所の清掃を実施し、常に清潔に保たれるようにしています。ISO9001の手順に則り、衛生チェック表、安全チェック表、保育・散歩コース・園庭・遊具安全チェック表に基づき管理しています。
- ・その日の外気温に応じて、エアコンの空調温度をきめ細かく変更しています。また、扇風機を使用し室内の温度むらを無くすように工夫しています。
- ・1階の0歳児・1歳児クラスの保育室、2階の2歳児、3歳児、4・5歳児クラス保育室は、オープンスペースになっているので、週案ミーティングの際にクラスリーダー間で、戸外と室内活動の時間や、室内のどの場所を使うかなどを調整し、音楽や保育士の声などが他クラスの活動のさまたげにならないよう配慮しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・0・1 歳児室に隣接して、沐浴設備、温水シャワーがあります。 ・沐浴設備、温水シャワーは、衛生管理マニュアルに基づき管理・清掃を行っています。 ・0・1 歳児保育室では、クッションなどで仕切ってコーナーをつくり、子どもたちが好きな遊びを十分に楽しめるようにしています。 ・食事後、テーブルを片づけたり部屋の隅に寄せたりして布団を敷き、食べる場所と寝る場所を時間帯によって使い分けています。
<p>I - 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p>  <p>(1)子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。</p> <p>(2)子ども一人ひとりの発達の段階に応じた対応をし、その記録があるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2 歳児については、個別指導計画を作成している。毎月末に評価・反省を行い、翌月の指導計画に反映させています。幼児についても、特別な課題や発達に気になるところがある場合には、年齢ごとの月間指導計画の中に、個別に配慮事項などを記載しています。 ・個別の目標・計画の見直しは、月間指導計画の作成時に定期的に行っていますが、子どもの発達状況にあわせ、柔軟に変更・見直しを行っています。 ・保育所児童保育要録を小学校に送付しています。 ・子どもや家庭の個別の状況・要望などを決められた書式に記録し、個人別にファイリングして鍵のかかる場所に保管しています。 ・入園後の子どもの成長発達記録は、年4期に分けて記録しています。0～2 歳児の保護者との連絡帳は複写式としているので、複写部分をファイリングし、成長発達を把握するために活用しています。 ・当日の子どもの朝の様子は視診表（健康観察表）に記入し、職員間で共有できるようにしています。また、朝夕の情報を記入し、職員間の申し送りや周知連絡などにノートを活用しています。 ・重要な申し送り事項は、お客様資料にその都度記入し、進級時などに申し送りできるようにしています。
<p>I - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>  <p>(1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。</p> <p>(2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。</p> <p>(3)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。</p> <p>(4)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1 階、2 階とも、段差のないフラット構造となっていて、バリアフリーに配慮しています。 ・集団生活になじめないなど、気になる子どもについては、スタッフミーティングにて話し合い、月間指導計画中に個別に配慮すべきことなどを記録しています。 ・横浜市や横浜市総合リハビリテーションセンターが行う発達障害などに関する研修を受けた職員が、スタッフミーティングで報告し、職員が情報を共有できるようにしています。また、横浜市総合リハビリテーションセンターの職員による年1回の巡回相談の際に助言を受け、職員間で情報を共有しています。 ・保護者の同意を得て、必要に応じ、横浜市総合リハビリテーションセンターや、港北区福祉保健センターなどから助言や情報が得られる体制ができています。 ・幼児クラスの子どもたちは、横浜市総合リハビリテーションセンター内の肢体不自由児クラスを年3回訪問し、一緒に遊ぶなどの経験をしています。 ・虐待の定義は、社内研修・園内研修などで全職員に周知しています。また、事務室の棚に虐待関係資料を置き、職員がいつでも見ることができるようになっています。

- ・虐待が明白になった場合、虐待が疑わしい場合や見守りが必要な場合に、港北区役所に通報したり相談したりする体制を整えています。
- ・虐待防止マニュアルを作成し、虐待が疑わしい子どもを見つけたら、視診を十分に行い不審なケガやアザの発見に努めるなどの留意事項を記載し、虐待の予防に配慮しています。さらに、嘱託医（内科医）や歯科医から、医者からのアドバイスを受けています。
- ・アレルギー対応マニュアルを作成し、全職員にアレルギー疾患について必要な知識や情報を周知しています。
- ・食物アレルギーの場合は、月末に、栄養士・担任・保護者で次月の献立内容について面談・確認を行い食事変更面談記録に記載、代替食・除去食を提供しています。
- ・代替食・除去食を提供する場合は、トレイやエプロン（0～2歳児のみ）を他の子どもたちと色が違うものを使用しています。また、子どもの名前と食べてはいけない食材名を記した札をトレイに立て、子どもが座る位置を必ず一定の場所にするなど配慮しています。さらに、テーブルでの配膳の際に保育士同士で確認して間違いのないようにしています。
- ・文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重しています。
- ・多文化理解教育の一環として、週1回外国人講師による英語遊びの時間があり、英語を楽しみながら文化の違いを子どもたちが知ることができるようにしています。講師は日本語を全く使わず、どの年齢のクラスも全て同じプログラムを英語で進めています。年齢の小さい子どもたちも講師の表情の豊かさに見入りながら、笑顔で応えています。また、世界にはいろいろな人がさまざまな生活をしていることを伝えるため、毎月異なった国の文化や生活（お金・名所・動物など）を写真で掲示するとともに、その国の伝統料理を給食献立に取り入れています。

I-6 苦情解決体制



- (1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- ・利用者からの苦情解決の取り組みに関する実施要綱を定めるとともに、苦情解決の流れをフロー図に表し、園内に掲示しています。
- ・要望・苦情の受付担当者は主任、苦情解決責任者は施設長であること、第三者委員2名の氏名・プロフィールをフロー図に記載しています。
- ・第三者委員に直接苦情を申し立てることができるように連絡先が記載されています。
- ・外部の権利擁護機関である横浜市福祉調整委員会に、苦情解決窓口があることを、苦情解決のフロー図に記載し、保護者に伝えていきます。
- ・保護者懇談会や個人面談で、保護者の要望や苦情を聞いています。また、保護者代表が参加している年2回の運営委員会で要望や苦情を聞いています。さらに、保護者アンケートを、本社が年1回行っていて、保護者は要望や苦情を記入することができます。
- ・保護者からの要望・苦情があったときは、すぐにミーティングを開き、職員全員で解決・改善策を話し合い、情報を共有するようにし

ています。

- ・ 毎月、スタッフミーティングで、要望や苦情の内容を本社全体会議で得た他の施設での事例を含めて報告し、ケーススタディを行ったりして、今後の課題解決に活かしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p>  <p>(1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p>(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中になされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 保育室内のおもちゃや絵本は棚に整理され、子どもが自由に取り出して遊び、自分で片付けもしやすいようおかれています。・ 子どもたちは、数人でブロック遊びやごっこ遊びをしたり、一人で絵本を読んだりして、それぞれ、思い思いに遊びを楽しんでいます。各保育室とも、絵本を十分に備え、子どもたちは自由に本を取り出して開き楽しむ様子を、多く観察しました。・ 保育士は子どもの発達にふさわしい環境構成に留意し、小まめに変更や補充を行っています。また0,1歳児クラスの保育室では、室内の仕切りに使う高さの低い柔らかな素材の家具や、扉の柵などが、子どもが立ち上がったたり伝い歩きをしたりする助けとして機能しています。・ 子どもの自主性を伸ばす目的で、昨年からの幼児クラスで「自由デー」を実施しています。子どもに「何をしようか」と、問いかけることから始まり、子どもたちが一日自分の好きな場所で、自分の選んだ活動をして過ごしています。・ 園庭で野菜や花の栽培をしています。一般的な野菜のほかに米や、スイカなども栽培し、子どもが興味を持って取り組める工夫をしています。子どもからの要望で、園庭の花壇の花の植え付けや草取りにも子どもたちが参加しています。・ 3歳児以上は各自の道具箱（画帳・クレパス・ハサミ・粘土など在中）を持ち、自由に取り出して遊んでいます。・ 子ども同士のけんかは、人との関わりを学ぶ場、とも考え、危険のないように注意しつつ、見守る姿勢でいます。お互いの気持ちや言い分を言葉で伝え合えるようにするとともに、周囲にいる当事者以外の子どもたちの意見も聞きながら、子どもたちで解決できるように援助をしています。・ 夏の暑い日と天気の悪い日を除き、毎日散歩や園庭遊びの時間を設けています。また新横浜公園、岸根公園、子どもの国など、多くの施設を利用して、積極的に屋外活動を行っています。
<p>Ⅱ－１ 保育内容[生活]</p>  <p>(7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。</p> <p>(8)食事の場、食材、食器等に配慮している</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 乳児の授乳は子どもを優しく抱きとめ、静かな声で子守唄を口ずさんだり声をかけたりしながら、ゆったりと行っています。・ 離乳食については、担当保育士と栄養士が離乳食移行予定表を作成し、保護者と相談しながら一人一人の子どもに合った進行を適切に進めています。・ テラスでの戸外食事体験や、自分でおにぎりを作る「おにぎりパー

<p>か。</p> <p>(9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。</p> <p>(10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。</p> <p>(11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。</p> <p>(12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。</p>	<p>ティー」など、子どもがわくわくして食卓に向かえるような工夫を重ねています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端午の節句の柏餅や、七夕そうめんなどのような、季節ごとの行事食を提供するほか、日常の献立にも季節の食材を取り入れて全て手作りの給食を提供しています。 ・献立は運営法人の栄養士チームが合同で作成し、2週間ごとのサイクルメニューにしています。この仕組みにより、1回目の子どもの喫食状況を見て、2回目でも材料の切り方や味付けに工夫を加え、より食べやすい給食の提供をしています。 ・給食だよりの「ポピンズキッズミール」に、人気メニューのレシピ紹介を載せたり、玄関にその日の給食サンプルを展示してお迎え時に見てもらうなど、保護者に関心を持ってもらう工夫をしています。 ・午睡時は、明るさの調整や静かなBGMで、子どもが眠りに入りやすい環境を作っています。乳児には子どもが安心して眠れるように、寝付くまで保育士が寄り添っています。 ・トイレトレーニングは、1歳児クラスの保護者懇談会で「トイレトレーニングについて」「生活習慣の自立にむけて」と題して説明をし、保護者との連携に留意しつつ、一人一人の状況に応じて対応しています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p>  <p>(1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。</p> <p>(2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。</p> <p>(3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営法人の看護師チームが作成した保健業務マニュアルがあり、これに基づいて子どもの健康状態を把握しています。 ・年に2回の健康診断、年に1回の歯科健診を実施し結果を記録し保管しています。 ・保健業務マニュアルには感染症による登園停止基準及び保育中の感染症対応が明記されています。また、保護者には入園時に「ご利用のしおり」にこれらの情報を記載し配布しています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>  <p>(4)衛生管理が適切に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理に関するマニュアルがあり、運営法人の看護師チームが年度末に見直しを行っています。 ・園内は、衛生マニュアルと衛生チェック表を活用した清掃が行われ、清潔な状態が保たれています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6)事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。
- (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・地震等に備えての転倒防止策として、おもちゃ棚などの家具は作りつけになっており、棚の上に重い物はなどは置いていません。小さな備品は、防災用のジェルで固定したり、棚の扉が開かない器具をつけたりするなど、きめ細かな工夫をしています。
- ・毎月、火事・地震・不審者等を想定した避難訓練を実施しています。災害に応じた通報手順の確認、避難場所への誘導などを行い、記録に残しています。
- ・子どもの事故やケガが発生した時の救急機関への連絡体制は通報手順を含めて分かりやすく整理し保健業務マニュアルに記載しています。
- ・園の立地が駅前ということもあり、JR 小机駅や駅前交番との交流は密に行われており、通報体制もあります。

Ⅱ－３ 人権の尊重



- (1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (5)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・子どもへの言葉かけについては、保育士の人格や保育観が反映されるとの認識を持ち、穏やかで優しい話し方を徹底しています。禁止語を使用せず「どうしたらいい？」と、子どもが自分で考えるように投げかける話し方を随所で観察しました。
- ・制約のある広さのなかで、職員が工夫を重ね、子どもたちにとっての居心地の良い場所作りをしています。
- ・全職員は、入社時に守秘義務についての説明を受け、機密保持誓約書を提出しています。ボランティア・実習生に対しては、事前に説明をしています。
- ・子どもや保護者に対し、父親・母親の役割を固定的に捉えた話し方はしていません。

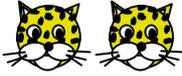
Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- (1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3)保護者の相談に応じているか。
- (4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6)保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。

- ・保育の基本方針は、入園時や保護者懇談会の場で説明するとともに玄関に掲示し、日々の送迎時に保護者の目に留まるように配慮しています。
- ・0～2歳児は所定の連絡帳で、3歳児以上は自由記載の連絡帳で、保護者との情報交換をしています。
- ・保護者からの相談には、内容を人に知られないように、面談の時間を保育室が空く時間に設定したり、場所の工夫をして保護者が安心して話すことが出来るように配慮しています。
- ・園からの情報は、ポピンズナーサリースクール小机園発行の、園だより「ポピンズニュースレター」と、運営法人が発行する、給食だより「ポピンズキッズミール」と、健康だより「ポピンズキッズヘルス」を月1回配布しています。また、クラスレターを、0～2歳児クラスは月1回、3～5歳児クラスは月2回、発行・配布しています。
- ・季節行事(夏祭り・運動会・クリスマス会・芋掘り)や、誕生会には希望者への参加を呼びかけるほか、日常の保育への参観希望はいつでも受け入れています。
- ・現在、保護者会はありませんが、園の運営委員会に保護者代表1名が参加し、年2回の運営委員会で意見を出してもらっています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 港北区内保育園合同で毎年行っている「港北区わくわく子育て広場」には、企画準備段階から参画し、港北区役所や他保育園と連携を持って育児講座などの子育て支援を行っています。 ・ 毎週火曜日に園庭開放を行っています。
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学者などからの育児相談には応じていますが、定期的に相談日を設けて、育児相談に応じるまでには至っていません。 ・ 園からのお知らせは、入り口門や、地区センターの掲示板に掲示し、情報の提供をしています。 ・ 関係機関との連携は、施設長・主任・看護師・栄養士・年長児担任でチームを作り、必要に応じた対応を心がけています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接する JR 小机駅からの要請を受けて「JR こども鉄道作品展」に電車の絵を発表展示したり、ハロウィンに地域の高齢者施設を訪問してお年寄りとともに楽しんだりするなどの交流があります。 ・ スポーツデイ（運動会）に、地域の未就園児親子を招き、親子で参加出来るプログラムなどを用意しています。 ・ 「港北区内公立私立保育園交流」があり、毎年、岸根公園で、子どもたちはドッジボール大会や「昔の遊び」などをして、他園の子どもたちと交流しています。 ・ 地域への施設開放や備品等の貸し出しを行うには至っていません。 ・ 地域の横浜市城郷小机地区センターの文化祭やふれあいコンサートへの親子参加や、小机消防出張所との交流訓練などを続けています。 ・ 地域の町内会・子ども会からの要請や提案を受け、イベントや行事に積極的に参加しています。

<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市ホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」や、運営法人のホームページに、園のわかりやすい情報を提供しています。 ・ 見学希望者には、保育に支障のない範囲で希望に沿った日時で対応しています。
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア・実習生受け入れのためのマニュアルがあり、このマニュアルに沿って園の方針や、活動にあたって配慮すべきことなどの説明をしています。 ・ 実習生には実習前に面接を行い、学生の意欲と希望を踏まえた実習内容を考えています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年度初めに、職員は個人目標を設定し、施設長と面談しています。年度末に自己評価を行い、施設長と面談し、達成度評価を受けています。 ・ 本社研修・園内研修・外部研修などの計画は立てられていますが、現場実習（OJT）、自己啓発などを含めた総合的な人材育成計画は策定するには至っていません。 ・ 本社研修のほか、園内研修を「エデュケア理解のために」と題して年に数回行い、必要な職員が参加しています。 ・ 横浜市や港北区、横浜市総合リハビリテーションセンター、各種保育団体などが実施する研修会など、外部研修に職員が積極的に参加しています。 ・ 研修に参加した職員は、研修レポートを作成、実践に活かせるように視点を整理してスタッフミーティングで報告し、職員全員で情報を共有するようにしています。 ・ 研修レポートを書いた職員は、3ヶ月後を目安に効果を自己評価しています。施設長はそれらを参考に、研修内容や参加する研修の種類やテーマなどの見直しをしています。 ・ 非常勤職員には、採用時に職場内OJTを主任やクラスリーダーが行っています。その後は、必要に応じその都度指導を行っていますが、園内研修や外部研修などへ非常勤職員が参加する機会はほとんどなく、資質向上への取り組みは不十分です。また、非常勤職員には、必要なマニュアルの内容は伝えていますが、さらに、業務に関する

	<p>まとまった全マニュアルがあることなどを周知することが望まれます。</p>
<p>V-2 職員の技術の向上</p>  <p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。 (2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。 (3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画 OJT 支援システムがあり、保育の基本技術や子どもたちへの接し方などの画像を見て、意見交換し、より良い保育となるように努めています。 ・ 横浜市総合リハビリテーションセンターの職員による巡回相談の際に配慮が必要な子どもへの助言や指導を受けています。また、ISO9001 認証取得後の定期審査を年 2 回受審し、各種書類、日々の業務遂行などについて評価を受ける仕組みがあります。 ・ 日々の子どもの活動している姿を撮影した記録映像を見て、意欲、取り組む過程などを重視して振り返りを行っています。 ・ 振り返りによる評価・反省を行い、月間指導計画・週案・日案の作成・見直しに反映させています。 ・ 保育士などの振り返りの結果をもとに、園としての課題を明らかにし、保育の質の向上に取り組んでいます。 ・ 園としての自己評価を全体的に行うには至っていません。
<p>V-3 職員のモチベーション維持</p>  <p>(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事評価システムの中で、能力や習熟度に応じた役割や行動能力が明文化されています。 ・ 日常の保育や保護者との対応など、現場の職員にできるだけ任せられるようにしています。また、夏まつり、スポーツデイなど園の行事や園の共通業務などの担当を各職員に割り振り、自主的に判断・遂行できるようにしています。 ・ スタッフミーティングなどの司会は、職員が担当し意見交換や提案などをしやすくするとともに、施設長は、保育士同士の意見交換、相談、コミュニケーションが円滑に行われるような職場環境づくりに努めています。また、いつでも施設長や主任に改善提案したり、意見を言ったりできることが職員ヒアリングで確認されました。さらに、年 1 回、本社による職員へのアンケート調査があり、要望・意見を自由に記入することができます。 ・ 施設長は、個人目標設定や自己評価のときに職員との個別面談を行い、満足度・要望などを把握しています。また、随時面談に応じています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織および職員が不正・不適切な行為を行わないよう倫理規程やコンプライアンスが明文化され、本社初任者研修などで職員に説明・周知しています。 ・ 本社全体会議の報告（会社の経営・運営状況、運営法人内他保育園の状況など）および園の経営・運営状況を、スタッフミーティングで職員に周知しています。また、情報公開ルールに基づき運営委員会に開示しているほか、保護者からの要請があれば開示しています。 ・ 環境教育年間計画を作成し、子どもたちも環境に配慮するよう努めています。子どもたちは、電気の大切さや、水やティッシュペーパーの使い方などを学んでいます。また、夏には「打ち水大作戦」と称して、子どもたちが園庭で打ち水を行い、エアコンを使わなくても涼しくなる経験をしています。 ・ 不要な電灯をこまめに消したり、冷暖房温度を適温に調整し扇風機を使用して効率化をはかったりして、省エネルギーに努めています。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>  <p>(1)保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2)重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3)主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念、教育方針を園の玄関に掲示し、保護者、職員に周知しています。 ・ スタッフミーティング時に施設長が理念・教育方針を説明しているほか、毎日1回、職員同士で理念・教育方針を復唱しています。また、保育日誌に、保育サービスチェックリストが記載されていて、求められる保育姿勢と自己の姿勢を毎日ふり返っています。 ・ 重要な決定や変更があるときは、保護者代表も参加している運営委員会で検討・報告しています。また、施設長は、送迎時などにできるだけ保護者と意見交換するよう努めています。 ・ 主任は、保育日誌などで個々の職員の業務状況を把握しているほか、現場に出向いて、各クラスの保育の様子を把握するよう努めています。 ・ 主任が個々の職員の能力や経験にあわせ、的確な助言や指導を行っているほか、主任補佐（3名）が、必要に応じ、職員への助言・指導を行っています。
<p>VI-3 効率的な運営</p>  <p>(1)外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業運営に係る情報は、横浜市や港北区役所からのほか、本社全体会議などで得ています。また、社内ネットワークシステムを通じて、最新情報が配信される仕組みがあります。さらに、横浜市私立保育園園長会や港北区社会福祉協議会保育分科会などに加入し、情報収集可能な関係を築いています。 ・ 重要な情報を得た場合は、その都度リーダーミーティングを開き、対応を話し合っています。 ・ 2012年～2015年の4年間の中期計画を作成しています。 ・ 記録映像作成をさらに推進し、“学びの可視化”を積極的に行っていく予定です。 ・ 適正な運営を行うよう、社会福祉法人会計に詳しい税理士事務所のアドバイスを受けています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2012年7月17日～7月31日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
②各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 81.0%（41枚配付、33枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…6人、1歳児クラス…7人、2歳児クラス…7人、3歳児クラス…7人、4歳児クラス…3人、5歳児クラス…3人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

※文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

◆設問ごとの概要

- ・保育目標や保育方針については、84.9%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答え、その回答者の全員が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。
- ・問1から問7では、ほとんどの設問でほぼ90%以上の満足度となっています。特に“園の目標や方針についての説明”“年間の保育や行事についての説明”“クラスの活動や遊びに子どもが満足しているか”“遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているか”“給食の献立内容”“給食を楽しんでいるか”“基本的な生活習慣の取り組み”“体調への気配り”“ケガに関する説明と対応”“感染症についての情報提供”“園だよりや掲示による園の情報提供”“子どもが保育園生活を楽しんでいるか”“意見や要望への対応”の項目で、100%の満足度です。
- ・満足度回答が80%台の項目は、“見学の受け入れ”と“おむつはずし”の2項目、70%台の回答が“アレルギーや障害のある子どもへの配慮”の項目ですが、見学については「見学はしていない」、他の2項目については、「該当しない」という理由で「その他」の回答が多くなっています。
- ・自由意見では、「保育室や園庭が狭い」という意見が多いものの、「仕方がない」「良く工夫してくれている」などの文章が続く回答になっています。園と保護者との情報交換について、「良く対応してくれている」という意見がある一方、「子どもの様子を具体的に聞きたい・見たい」という意見もあります。
- ・保育園の総合的な満足度は「満足」「どちらかといえば満足」を合わせて96.9%です。

◆まとめ

満足回答100%の項目が13項目にのぼるという大変高い評価を得ています。子どもの遊びや生活、保護者への説明・対応・情報提供などの項目に満足回答が多く、保護者が保育内容に満足し、さらに園と保護者とのコミュニケーションが良好なことが伺えます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

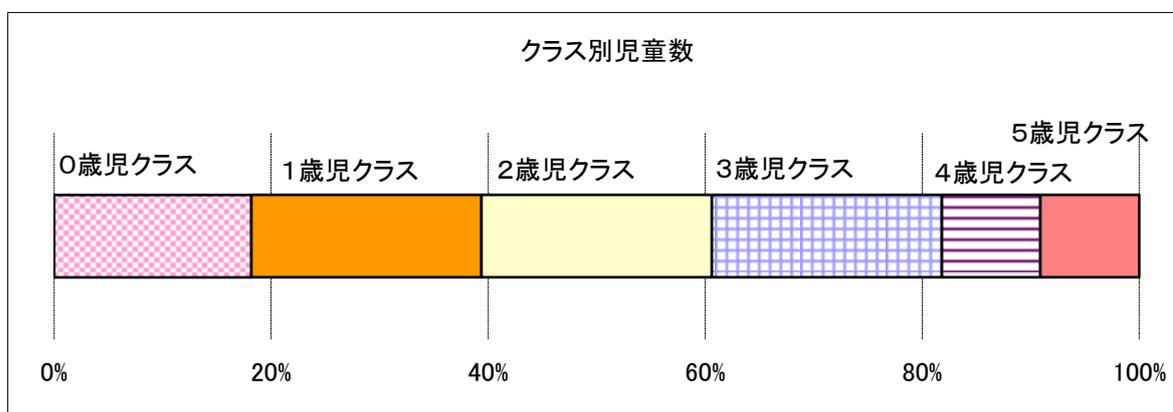
実施期間： 2012年 7月17日～7月31日

回収率： 81.0% （回収33枚／配布41枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
33	6	7	7	7	3	3	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



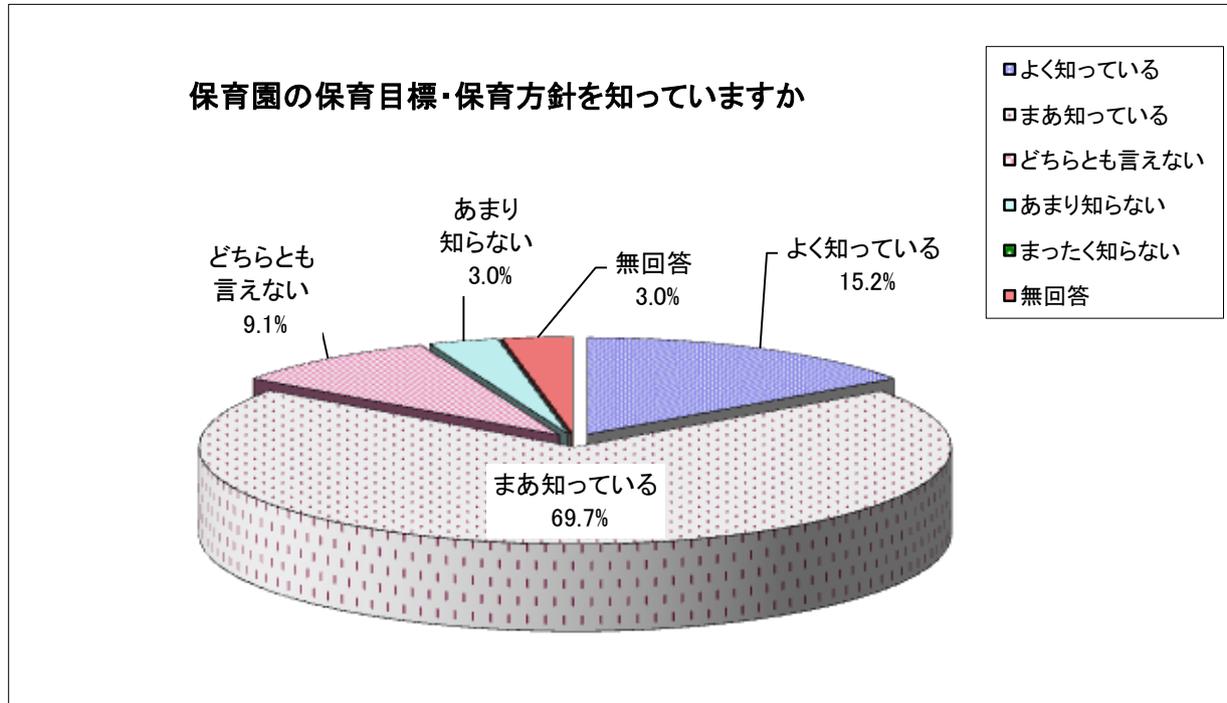
■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	15.2	69.7	9.1	3.0	0.0	3.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

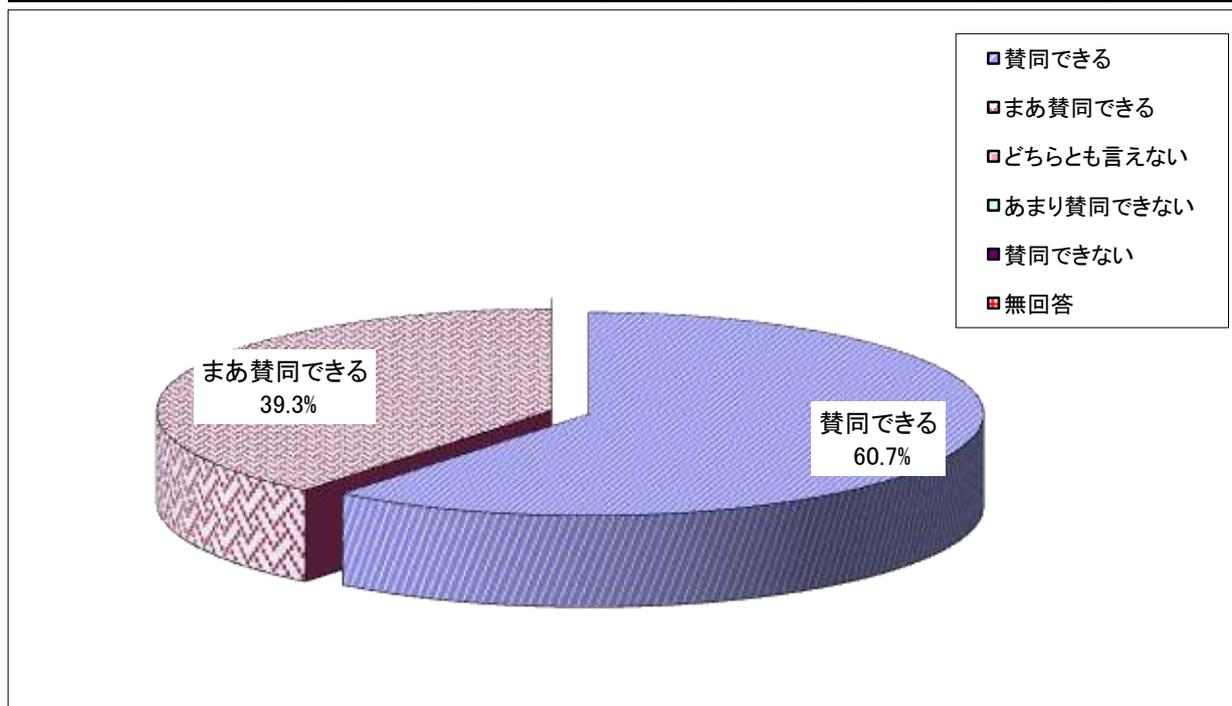


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	60.7	39.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100



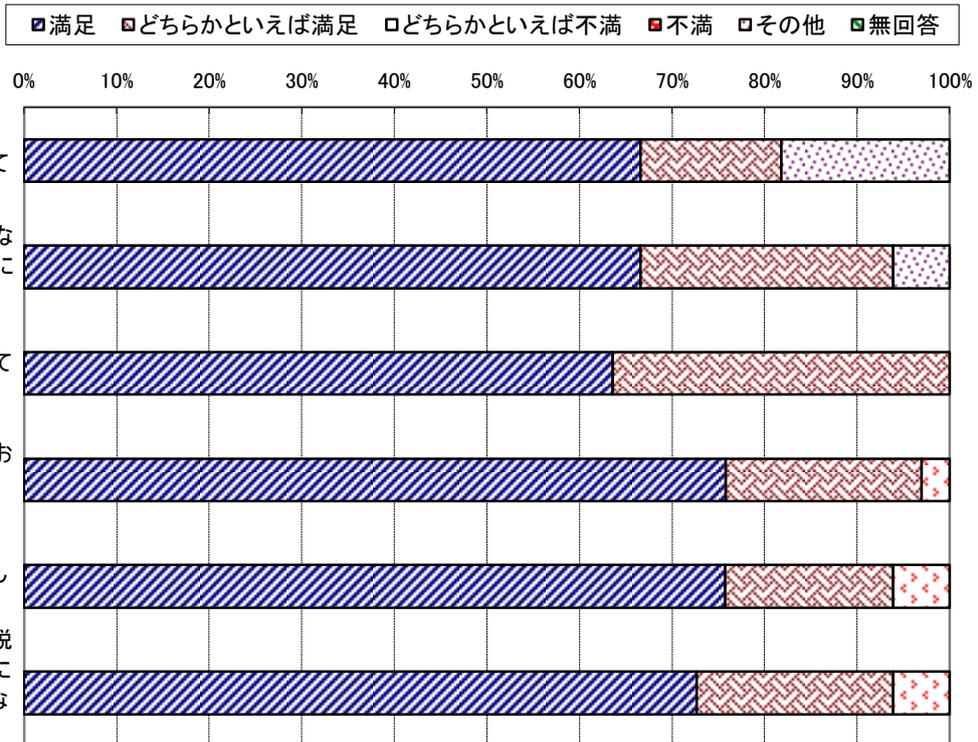
■ 保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	66.7	15.2	0.0	0.0	18.2	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	66.7	27.3	0.0	0.0	6.1	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	75.8	21.2	3.0	0.0	0.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	75.8	18.2	6.1	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	72.7	21.2	6.1	0.0	0.0	0.0	100

入園時の状況について

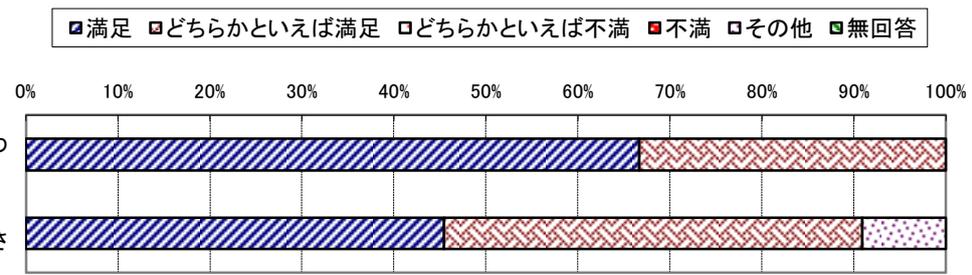


問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	45.5	45.5	0.0	0.0	9.1	0.0	100

年間の計画について



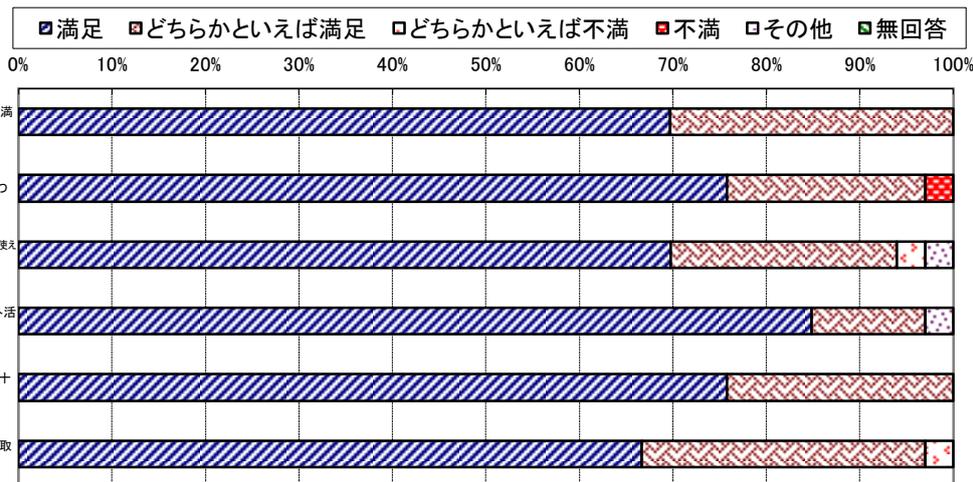
問4 日常の保育内容について

(%)

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	69.7	30.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	75.8	21.2	0.0	3.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	69.7	24.2	3.0	0.0	3.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	84.8	12.1	0.0	0.0	3.0	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	75.8	24.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	66.7	30.3	3.0	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

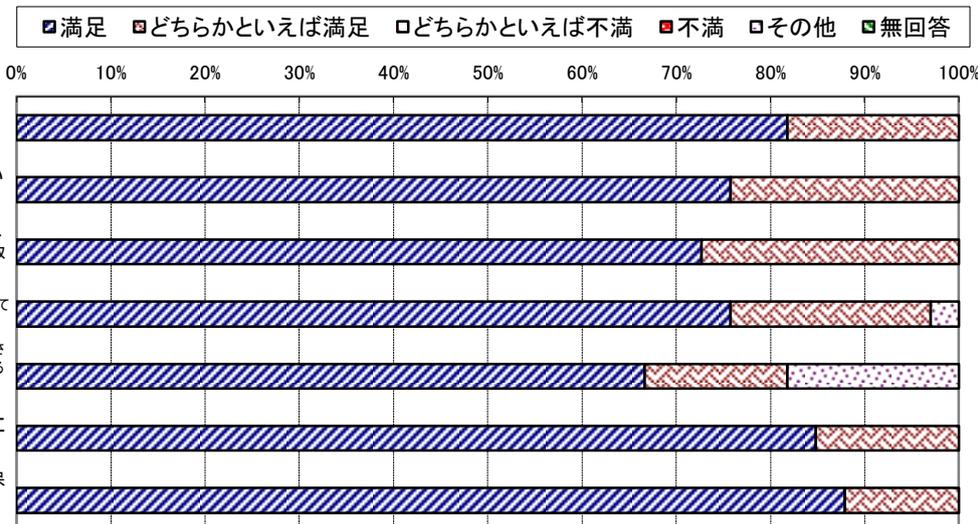


(%)

●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	75.8	24.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	75.8	21.2	0.0	0.0	3.0	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	66.7	15.2	0.0	0.0	18.2	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	84.8	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	87.9	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

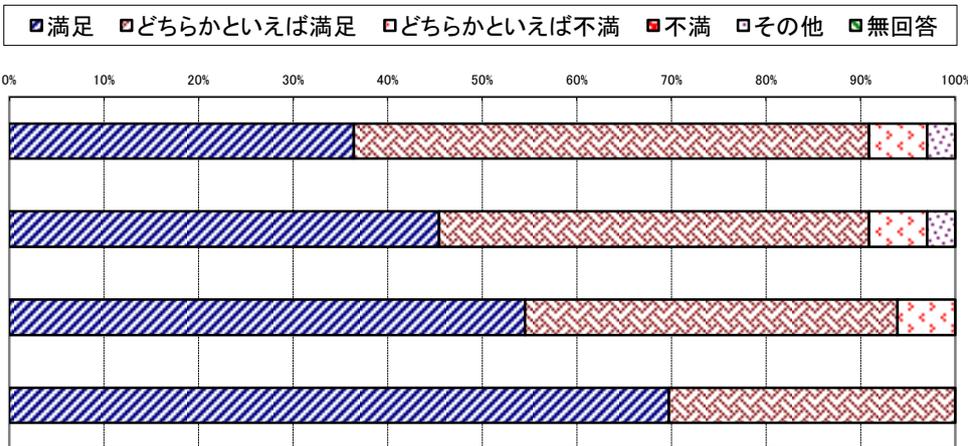


問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	36.4	54.5	6.1	0.0	3.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	45.5	45.5	6.1	0.0	3.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	54.5	39.4	6.1	0.0	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	69.7	30.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

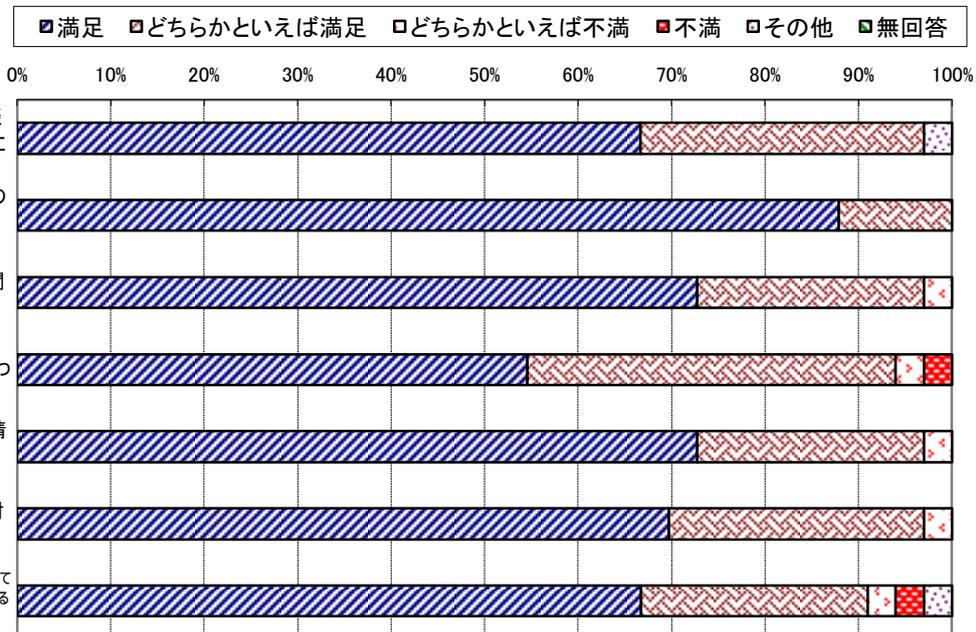


問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	66.7	30.3	0.0	0.0	3.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	87.9	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	72.7	24.2	3.0	0.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	54.5	39.4	3.0	3.0	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	72.7	24.2	3.0	0.0	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	69.7	27.3	3.0	0.0	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66.7	24.2	3.0	3.0	3.0	0.0	100

園と保護者との連携・交流について



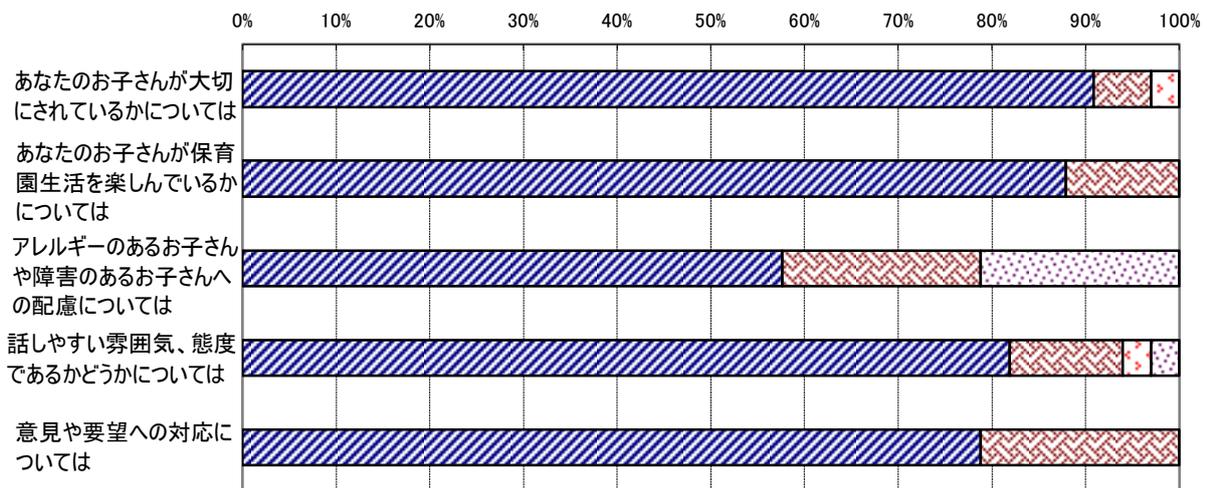
問7 職員の対応について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	90.9	6.1	3.0	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	87.9	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	57.6	21.2	0.0	0.0	21.2	0.0	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	81.8	12.1	3.0	0.0	3.0	0.0	100
意見や要望への対応については	78.8	21.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100

職員の対応について

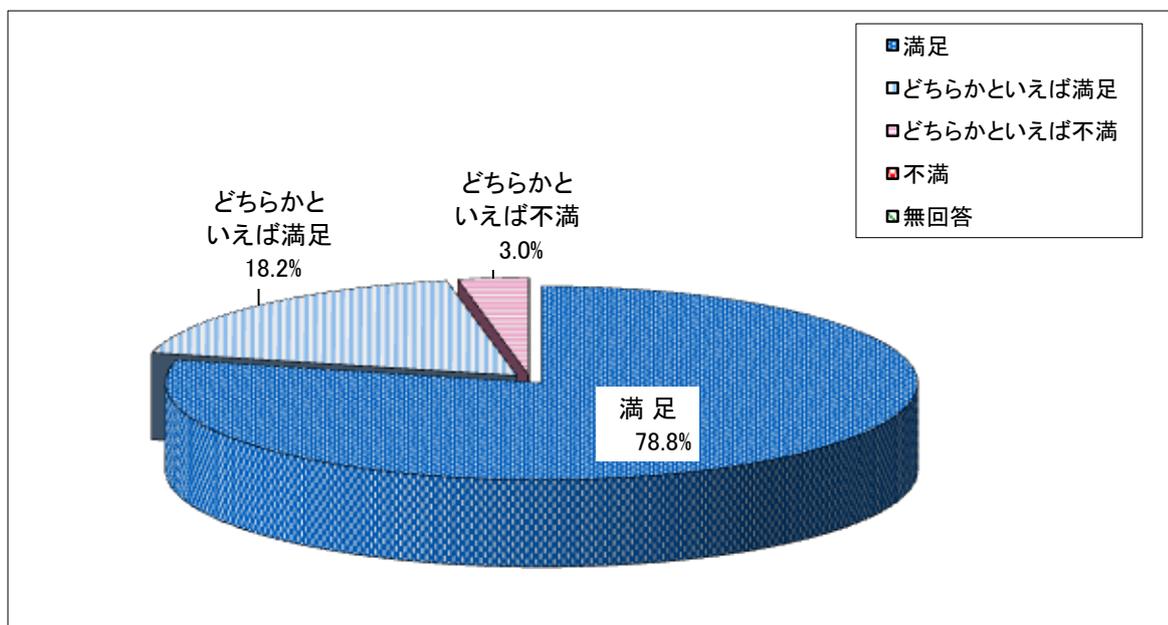
■満足 □どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 □無回答



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	78.8	18.2	3.0	0.0	0.0	100



利用者（園児）本人調査 分析

◆ 観察調査 ①9月19日（水）9：05～17：00 ②9月25日（火）8：45～17：00

※ 観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

◆ 0歳児クラス

朝のおやつは、椅子に座れる子どもたちが食べています。保育士が「2つずつ、どうぞ」と言うと、お皿に盛ったビスケットを自分の分だけ取ります。他の子どもたちは、サークルで囲われた別コーナーで、保育士にしっかりと抱かれて授乳してもらいます。優しい声で歌を歌ってもらいながら飲んでる姿も見られます。0・1歳児一緒の朝のあつまりでは、絵本を読んでもらい、みんな集中して聞き、声を上げたり歌ったりしながら楽しんでいます。1歳児と分かれた後の運動遊びでは、ダンボールを輪にしたトンネルの中をくぐります。背の高いダンボールは下の方に出入り口が切り込んであり、何回も出たり入ったりして楽しそうです。自由遊びの時間には、保育士に絵本を読んでもらったり、歌を歌ってもらったりしています。子どもたちの様子を見ながら「もうひとつコーナー作ろうか」と保育士同士で打合せ、積み木やおもちゃなどを出すと、何人かでグループを作って遊んだり、一人で好きなことを始めたりしています。給食は、離乳食の段階ごとに分かれて食べます。

◆ 1歳児クラス

朝のおやつの前に、全員トイレに行きます。おむつを取って一人ずつ便器に座る練習をします。終わった後の手洗いは自分でやりますが、蛇口に横から手を出そうとして「順番にね」と保育士に言われ、「じゅんばん、じゅんばん」と言いながらきちんと待っている姿も見られます。おやつの後、今日は、0歳児と一緒に、多文化理解教育の時間（内容は、下記の別項目を参照）です。元気に英語遊びを楽しんだ後、園庭に出ます。0歳児クラスで、月齢が1歳を過ぎた子どもも一緒です。外の気温が低いので、保育士は上着を着るように子どもたちに伝え、「帽子をかぶります」と言って自らかぶって手本を示します。子どもたちの帽子は、色、形などさまざまで、たれ付きの帽子の子どももいます。靴下と靴を自分で履きますが、保育士は急がせることなく、見守っています。砂場の周りで、スコップで砂をすくってバケツやお皿に入れたり、砂場に穴を掘ったり、それぞれ好きなことをして遊びます。友達のおもちゃを取り上げそうになった子どもに、保育士は「だめ」とは言わず、抱っこして子どもの気持を落ち着かせてから、ゆっくりと言いつけて聞かせています。

◆ 2歳児クラス

朝一番の多文化理解教育のプログラム終了後は、ミルクとおせんべいのおやつ時間です。席の並びで「この子の隣に座りたい」と主張した子どもは、保育士に「次は、隣に座れるようにしようね」と言われて、納得しました。おやつを済ませると、製作に取りかかります。薄い紫色の紙を小さく立体的に丸めてぶどうの一粒をつくります。平たくなって丸まらない子どもには、保育士がヒントを与えています。何粒かぶどうを作って厚紙の台紙に貼って、一房のぶどうができあがりました。保育士が全員の分を窓に張りつけると、ぶどう棚のようになりました。次は、紙粘土遊びです。動物などの形を作ったり、型抜きをしたり、一人一人が好きなことをしています。粘土で手が汚れるのを気にせず、みんな熱中しています。手を洗った後、一列に座って、保育士が読む絵本を静かに聞いています。

昼食の時は、それぞれが手づくりのランチオンマット（小さく思い思いの形に切った色紙をプラシートに挟んでパウチしたもの）を敷いています。「よく噛んでね」「お魚おいしいね」など保育士にやさしく声をかけてもらいながら、落ち着いて食べています。食べ終わった順に歯磨きをし、着替えて午睡に入ります。

◆ 3 歳児クラス

朝の自由時間は、3・4・5 歳児がオープンスペースで遊んでいます。ブロック遊びに熱中している子どもが多く、長い列車や飛行船を作っています。3 歳児は、座っている保育士の左右の膝に二人ずつ乗ったり、保育士の後ろから首に手をかけてまわりついたりして、甘える姿も見られます。3・4・5 歳児一緒に朝の集まりでは、リトミックで習った歌を元気に歌い、保育士が読む絵本を真剣に聞いています。朝のあつまりが終って、3 歳児クラスは、お絵かきをしました。ぶどう、くりなど、思い思いに秋の果物を画用紙にクレヨンで描いた後、別の画用紙に“お皿”を絵の具で描きます。保育士は、子どもたち一人一人に「何色がいい？」と希望を聞きます。ピンク・黄色・赤色の絵の具を溶いてもらって、それぞれ希望した色のお皿を描きました。空いている 2 歳児クラスの部屋に移り、CD の音楽にあわせてダンスをし、思いっきり身体を動かして楽しんでいきます。昼食までの休憩時間は、一人一人好きな絵本を棚から出してきて読みました。4、5 人が集まって英語の絵本を見ていて、lion, monkey などと書いてある動物の名前を保育士に読んでもらいました。

◆ 4・5 歳児クラス

朝の時間、3 歳児も一緒に園庭で遊びます。砂場の周りで遊ぶ子どもが多く、スコップで砂をすくい、バケツやお皿に入れたり、穴を掘ったりしています。泥団子を作ってお皿に乗せ、「いらっしゃいませ」「たこやきです」など、お店屋さんごっこをする姿も見られます。レンズがついたプラ製の容器に、小石や小さな昆虫（カナブン）を入れて覗き、「大きく見える」と喜んでいる子どももいます。遊びの時間が終わったとき、保育士から「〇〇君、△△君、おねがいしていいですか」と声をかけられ、男の子二人が掘った穴を埋め戻しました。保育室に戻り、3 歳児も一緒に朝の集まりの後、多文化理解教育の時間です。プログラムが終って、4・5 歳児は、来週行われるお誕生会の出し物「山の幼稚園」の練習です。保育士は登場する 3 種類の動物のどの役をしたいか、子どもたち一人一人に聞きます。画用紙に希望した動物の絵とともに花・草・昆虫などを描き、2 歳児室に移動します（2 歳児は既にオープンスペースに移り、給食の配膳を待っている）。みんなで歌う「山の幼稚園」の歌にあわせて、同じ動物の絵を持った子どもが、前に出ます。初めは足並みが揃わないこともありましたが、何回か繰り返すうちに、タイミングよく前に出ることができるようになりました。

◆ 多文化理解教育の時間（英語遊び）

多文化理解教育の一環として、週 1 回、外国人講師による英語遊びの時間があります。保育観察 2 日目がその日でした。3 グループに分かれ、2 歳児、0・1 歳児、3・4・5 歳児の順に、それぞれ約 30 分程度です。内容は年齢によらず同じで、講師は日本語を全く使わず英語で話しかけます。子ども一人一人に名前を問いかけた後、カレンダーを用いて曜日と天気を問い、アルファベットの歌をみんなで歌います。子どもたちが集中力を切らさないように、途中でぬいぐるみや数のカードなどを用いる工夫をしています。英語の歌を何曲かみんなで踊りながら歌い、子どもたちは全身を使って楽しんでいきます。数についての絵本を英語で読んで聞かせたりもします。講師は子ども一人一人とアイコンタクトをしっかりと取り、年齢の小さい子どもたちも講師の表情の豊かさに見入りながら、笑顔で応えています。担任の保育士は、ちょっと気乗りがしない子どもを、膝の上に座らせてみんなと一緒に列に加わるなど、全員が参加できるように見守っています。

◆ まとめ

1 階、2 階のそれぞれで、異年齢児と一緒に活動する時間が多く、きょうだい在家中で過ごしているような家庭的な雰囲気の中で、子どもたちは過ごしています。クラスに関係なく、子どもたち一人一人にいつも保育士の目が行き届き、子どもたちも信頼をよせています。

事業者コメント

横浜市初の株式会社立認可保育所として、ポピンズナーサリースクール小机がこの地に産声をあげてから今年で10年を迎えました。折しもその節目の年、第三者評価受審により、社会的存在としての園運営を多面的視点から検証する機会が得られたことを、職員一同心から感謝しております。

なかでも、お忙しいなかをアンケート回答にご協力くださった保護者の皆様方の温かいご意見の有り難さには改めて御礼申し上げます。加えて評価機関の調査員による丁寧な分析結果から、どれだけ職員が元気づけられ、かつ保育課題をみいだせたことでしょう。

今回の受審においては、バランスの良い保育運営に対し、評価をいただけたと受け止めております。ヒントをいただいた諸課題に対しては組織的に取り組んで参ります。

小机の地域性の上に立ちつつ、最新の保育情報を運営に反映させるセンスをもち、バランスのとれた小回りのきく保育施設目指して、新たな11年目を歩む所存です。10年（前身合わせて12年）という伝統のなかで築きあげた全ての皆様との信頼関係を大切に…。

ポピンズナーサリースクール小机
施設長 千葉 初穂

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

- 市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

- 横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hyouka/>

- かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 第2事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL : 045-222-6501

FAX : 045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
